

九州観光ビジネスプランコンテスト 2023

事業計画書

提出日 2023 年 10 月 31 日

学 校 名	佐賀大学		
学部・学科名	教育学部・学校教育過程、理工学部・理工学科		
チー ム 名 (個人参加の場合は任意)	お城で知ろう！佐賀の歴史スタディツアー！	エントリーNo.	24
●●●●●●●●●● ●●●●●●●●●●			
携帯電話番号	●●●●●●●●●●	E-mail	●●●●●●●●●●
チームの紹介(任意項目) 佐賀大学の教養科目「佐賀 SDGs グローカルアクションⅣ」の授業で構成された3人組である。授業において、佐賀県にスポットを当てた観光ビジネスプランの作成に励んだ。教育学部出身で持続可能な社会の実現に向けて教育の立場からアプローチする人、唐津出身で唐津城や名護屋城についての知られざる魅力を全国へとアピールしていきたい人、独特な視点を持ち奇想天外な発想をする人の3人がそれぞれ3方向から意見を出し合った。特に、<u>①佐賀県の城の魅力と②観光客の増加による全国各地のオーバーツーリズムの問題</u>という2点に着目して、<u>佐賀県の価値を磨きながらも環境保護</u>していけるプランを考案していく。			
1. 取り組みテーマについて(なぜこのテーマに取り組んだのか)			
現状および課題認識			
現状として、全国魅力度ランキングで佐賀県は 2022 年では 47 位、2023 年では 46 位という実態がある。その原因は、佐賀牛や日本三大稲荷である祐徳稲荷神社、有田焼や嬉野温泉といった様々な名所や特産物があるにも関わらず、それらを全国へと発信していくことができていないことだと考えた。そこで私たちは、これらの佐賀県の名所や特産物を全国各地へと広げ、佐賀県の価値を磨き続けることのできるようなプランは何か考えた。その際に、注目した課題が大きく2つある。			
		1つ目の課題は、佐賀にある観光地についてだ。私たちは佐賀県にある城に着目し、特に唐津城、名護屋城、佐賀城の3つに着目した。なぜなら、佐賀県を代表する城であり、歴史的建造物を再建・保護しているにもかかわらず、あまりPR活動が出来ていないため、盛り上がり欠けていると感じたからだ。唐津城は、もともと天守閣は存在しなかったが、昭和 41 年に文化観光施設として建設された。通常とは異なり、海城であるため浜辺から見ることでもでき、展望フロアからは唐津湾や虹の松原といった絶景を見ることが出来る。	
写真 1: 唐津城 また、名護屋城は、お城の再建はされていないが、当時の石垣が現存し、多くの歴史的資料もあることから、名護屋城跡として大切に保全されている。名護屋城跡では VR で当時の様子を体感することも出来る。佐賀城は復元されており(右写真)、2500平方メートルの規模を誇る。畳敷きの廊下や大広間で和空間を体感することも出来る。これら3つの城の共通点は、<u>非日常空間を体感</u>することができることだ。			
		写真 2: 名護屋城跡	
写真 3: 佐賀城			

2つ目の課題は、オーバーツーリズムに関することだ。オーバーツーリズムは、「観光公害」とも呼ばれる。観光地において訪問客が増加することにより、ゴミや騒音、交通渋滞などが深刻化していき、結果的に地域住民の生活環境を乱したり、環境が悪化することにより観光客の満足度を低下させたりしてしまう現象のことである。近年は、自然環境保護を目的に、人気のビーチが閉鎖されるといった事案も発生している。観光客が増え、佐賀の魅力が全国へと広がっていったとしても、オーバーツーリズムによって、佐賀県に悪影響が起きれば意味がない。そのため、新たな観光ビジネスプランにおいて、プラスの部分はそのまま伸ばし、**マイナスの部分(オーバーツーリズム)は、プラスへと転換できる取り組み**を考えることにした。

この2つの視点から、佐賀県の城の知られざる魅力を全国に発信し、非日常空間を体感しつつ、環境を保全していくプランについて考えてみた。

2. 課題解決に向けた新たなアイデアについて

「佐賀の歴史を学ぶスタディツアー」

佐賀県の魅力として3つの城にスポットを当てて、魅力を発信しながらも非日常空間を体感できる取り組みを考えていく。また、観光客の増加に伴うオーバーツーリズムの問題解決にも取り組んでいきたい。この2つの目的に最適なものは、「スタディツアー」ではないだろうかと考えた。スタディツアーとは、学習を目的とした旅行のことを指す。スタディツアーは、理論的な学習を補完するために実践的な経験を提供することができ、新しい環境や文化に触れることで、参加者の視野を広げ、異文化理解や国際交流の促進にも寄与することが期待される。教育や専門分野の学習を深める機会として、また楽しく有益な経験として広く利用されているのだが、このスタディツアーを、佐賀のお城について応用できないだろうかと考えた。

3. 九州や地域社会への影響について

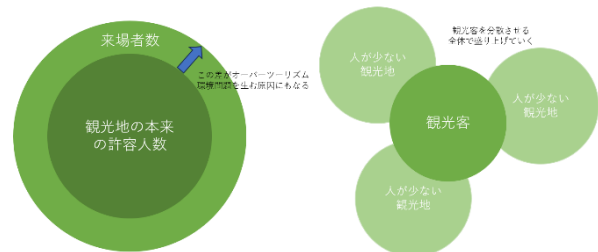
新たなアイデアが九州や地域に及ぼす効果

このスタディツアーがもたらす効果は大きく2つあると考える。

1つ目は、**佐賀県内が活性化**するという点だ。スタディツアーのターゲットとしては、主に県外の方や修学旅行生等を想定している。これらの観光客が佐賀県を訪問することにより、経済効果を見込めるのはもちろん、佐賀県の魅力を発信していくきっかけとなるだろう。また、新しい考え方や他県との比較等が生まれ、そこから佐賀県の価値を磨くことにもつながると考えている。

2つ目は、**佐賀県の環境が保護**されるという点だ。スタディツアーの中に、環境保全に対する取り組みを取り入れることによって、オーバーツーリズムの問題を解決し、“来たときよりも美しく”の精神で観光することで、県民の生活の充実度が向上すると考える。オーバーツーリズムの対比の言葉として、**アンダーツーリズム**がある。

アンダーツーリズムとは、大都市や混雑する観光名所ではなく、あまり名の知られていない観光スポットや穴場スポットといったローカルな場所を旅行することである。メジャーな観光地に観光客が集まるのをマイナーな観光地へと観光客を分散させることにより、渋滞やごみ問題、騒音といったオーバーツーリズムの問題を解消することができる。佐賀の観光地と言われて「佐賀の城」をあげる人はあまりいないだろう。そこで、城を巡るスタディツアーを提案することにより、観光客の分散、つまりアンダーツーリズムにつながると考える。



4. 事業化に向けたビジネスモデルについての具体的な紹介

一日のスケジュール

9:00 佐賀駅出発

9:15 佐賀城到着

① 観光(城内見学、佐賀城本丸歴史館見学)

② お堀の清掃

12:30 昼休憩

14:30 唐津城到着

① 観光(展望)

② 海岸のゴミ拾い

16:30 名護屋城到着

① 観光(VRで当時の様子を体感、博物館見学)

② 石垣磨き

19:30 佐賀駅着(日帰りの場合)

19:30 嬉野温泉到着(宿泊の場合)

次の目的地へ

(1)それぞれのお城の歴史について知る。

(2)天守閣に入ってもらい、普段は体験できないような空間を感じてもらう

(3)それぞれの城に関して保全活動に参加してもらう

それぞれの城において、上記3つを行う。これまでのツアーで、おそらく①②は存在していただろう。しかし、それに加えて、実際に保全活動に参加をしてもらうことで、自分の手で歴史を繋いでいくことができ、興味をもってもらうことが出来るのではないだろうかと考えた。

このようなプランを、佐賀県だけではなく、九州内で考えることが出来る県はできる限りプランを考えてもらい、なにか繋がりを持たせることで、歴史の繋がりにも深みを持たせる。

広告宣伝

旅行会社に協力してもらい、売り込んでもらう。また、駅や電車内にポスターを設置し、周知する。

参加をしてもらった場所で、違う場所のスタディツアーを紹介していただき、情報を広めていく。

収支

収入 ・ツアーの参加費

・(お金ではないが)保全に協力してもらう

支出 ・ガイドさんやバスの運転手の人件費

・ガソリン等の交通費

5. 事業化後の目標、継続可能性や将来のイメージなどについて

このスタディツアーに参加してもらい、佐賀、九州の歴史を知ってもらい、後世に伝えていく。そして、目標としては、名護屋城の再建を考えている。名護屋城跡や資料館に足を運んだことがあるのだが、立派な石垣が残っており、また歴史的な資料を多数残っている。名護屋城にもっと人を呼び込むためには、やはり城を再建することが最重要事項なのではないだろうかと考えている。そのためには莫大な費用が掛かるため、このツアーや寄付金を募って回収を目指す。将来的には、佐賀と言えば佐賀城、唐津城、そして名護屋城であると言われるようになることを目指す。

[参考文献]

[【公式】唐津城 \(karatsujo.com\)](https://karatsujo.com/)

[名護屋城とは | 佐賀県立 名護屋城博物館 \(saga-museum.jp\)](https://saga-museum.jp/)

<記入上の注意>

- ・各項目の文字数の制限はありませんが、計画書全体で最大A4用紙片面3枚以内に収めてください。
 - ・各項目の詳細説明のため概要図・グラフ・画像などの挿入や添付も可と致します。
- なお、解像度に画像が荒くなる場合がありますので、使用するフォントや写真等には留意下さい。